



令和7年度

西日本地区重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会

福岡県におけるHIV感染者・エイズ患者の 状況と県の取組みについて

令和8年2月27日

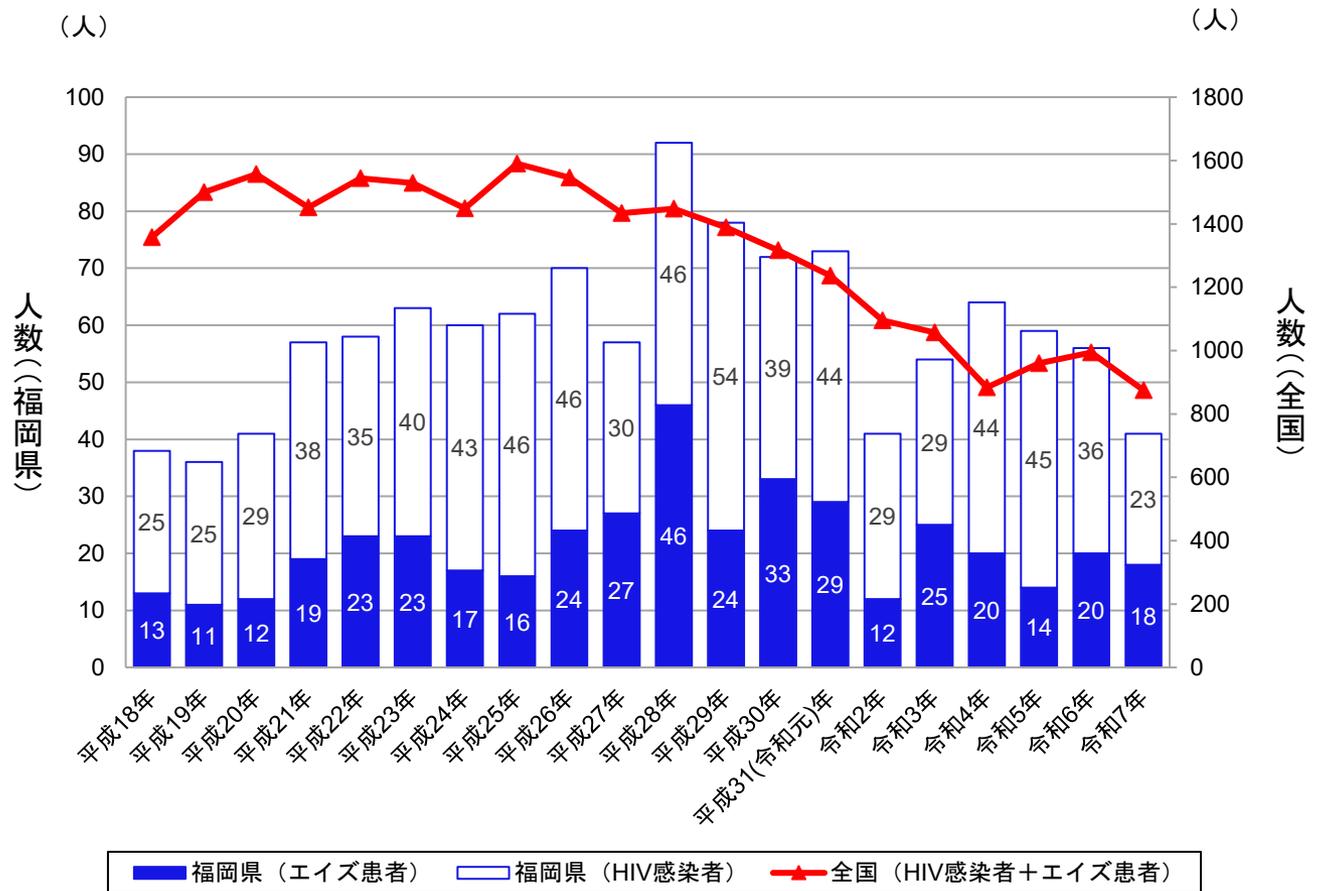
福岡県保健医療介護部
がん感染症疾病対策課感染症対策係



新規HIV感染者・エイズ患者報告数の年次推移

年	HIV感染者	エイズ患者	総数
平成18年	25	13	38
平成19年	25	11	36
平成20年	29	12	41
平成21年	38	19	57
平成22年	35	23	58
平成23年	40	23	63
平成24年	43	17	60
平成25年	46	16	62
平成26年	46	24	70
平成27年	30	27	57
平成28年	46	46	92
平成29年	54	24	78
平成30年	39	33	72
平成31(令和元)年	44	29	73
令和2年	29	12	41
令和3年	29	25	54
令和4年	44	20	64
令和5年	45	14	59
令和6年	36	20	56
令和7年	23	18	41

最新年は速報値



【引用データ】福岡県感染症発生動向調査
※受理週、受理日で集計



新規報告における「いきなりエイズ率」

	全国			福岡県		
	R5	R6	R7※	R5	R6	R7※
新規報告数 (HIV感染者+エイズ患者)	960	994	875	59	56	41
新規エイズ患者 報告数	291	332	-	14	20	18
新規報告数に占める エイズ患者の割合 (=いきなりエイズ率)	30.3%	33.4%	-	23.7%	35.7%	43.9%

※ R7は速報値

【引用データ】
エイズ動向委員会報告. 令和6(2024)年エイズ発生動向一分析結果一
福岡県感染症発生動向調査(※受理週、受理日で集計)



R6年新規報告数及び人口10万人対報告数の上位都道府県

1. HIV感染者

	都道府県	報告数		都道府県	人口 10万対
1	東京都	227	1	東京都	1.60
2	大阪府	63	2	大阪府	0.72
3	愛知県	47	3	福岡県	0.71
4	神奈川県	41	4	岐阜県	0.68
5	福岡県	36	5	栃木県	0.64
6	北海道	29	6	愛知県	0.63
7	千葉県	19	7	北海道	0.58
8	静岡県	18	8	茨城県	0.57
9	埼玉県	17	9	大分県	0.55
10	茨城県	16	10	鹿児島県	0.53
10	兵庫県	16			

2. エイズ患者

	都道府県	報告数		都道府県	人口 10万対
1	東京都	63	1	高知県	0.61
2	大阪府	28	2	沖縄県	0.48
3	神奈川県	23	3	東京都	0.44
4	愛知県	22	4	茨城県	0.43
5	福岡県	20	5	栃木県	0.42
6	埼玉県	16	6	福岡県	0.39
6	千葉県	16	7	佐賀県	0.38
8	茨城県	12	8	和歌山県	0.34
9	兵庫県	10	9	大阪府	0.32
10	静岡県	9	10	長崎県	0.32

【引用データ】

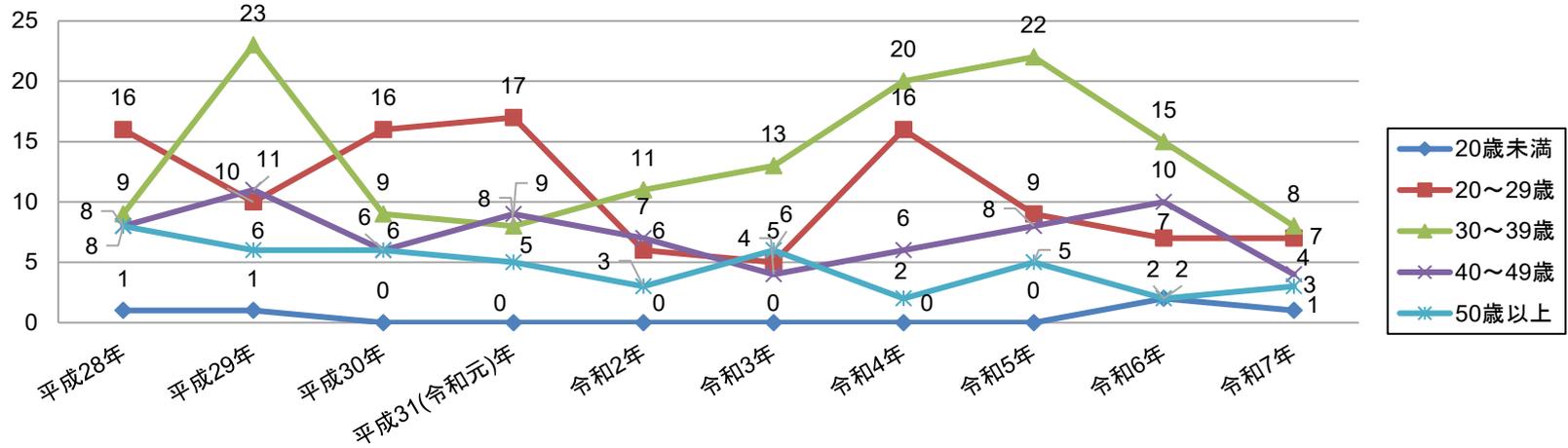
エイズ動向委員会報告. 令和6(2024)年エイズ発生動向一分析結果一 3



新規HIV感染者・エイズ患者の年代別年次推移

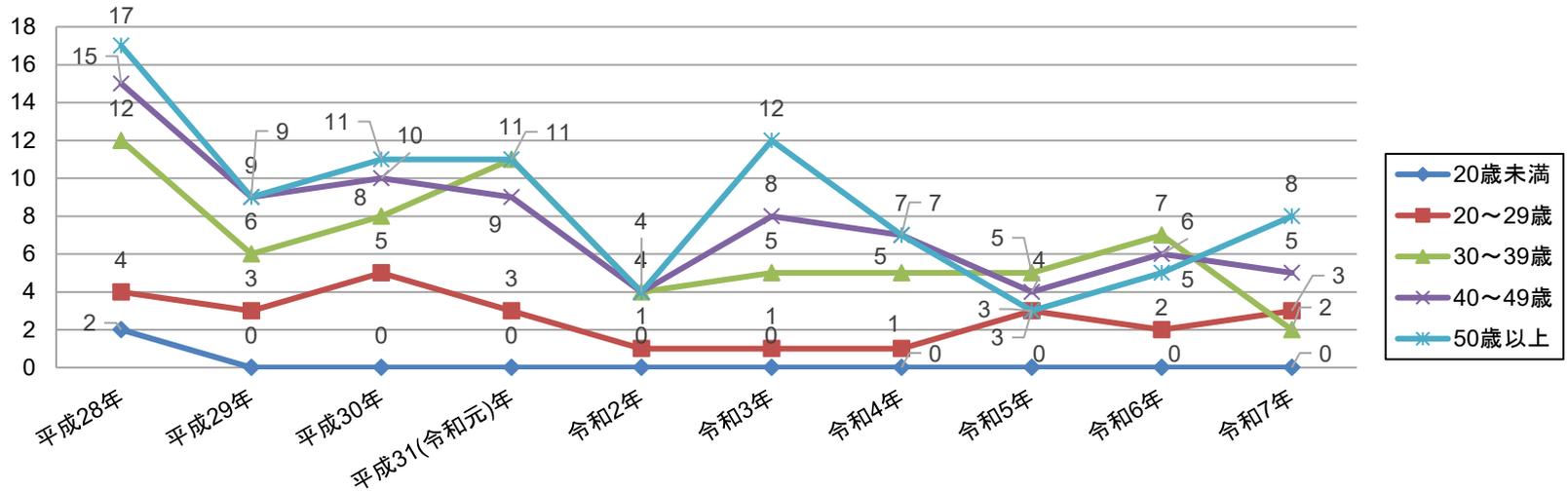
感染者

(人)



患者

(人)



最新年は速報値

【引用データ】福岡県感染症発生動向調査
※受理日で集計

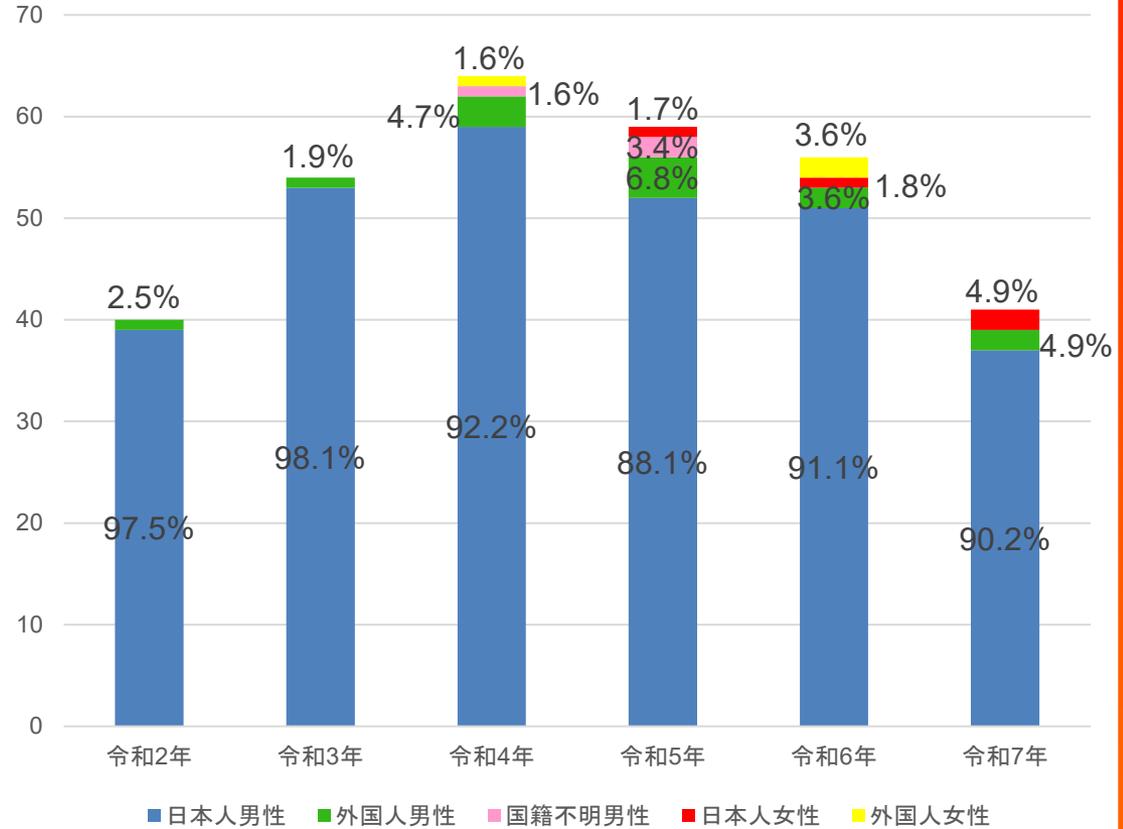


新規HIV感染者・エイズ患者の国籍別・性別年次推移

区分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
日本人男性	39	53	59	52	51	37
外国人男性	1	1	3	4	2	2
国籍不明男性	0	0	1	2	0	0
日本人女性	0	0	0	1	1	2
外国人女性	0	0	1	0	2	0
国籍不明女性	0	0	0	0	0	0
総数	40	54	64	59	56	41

最新年は速報値

(人)



【引用データ】福岡県感染症発生動向調査
※受理日で集計

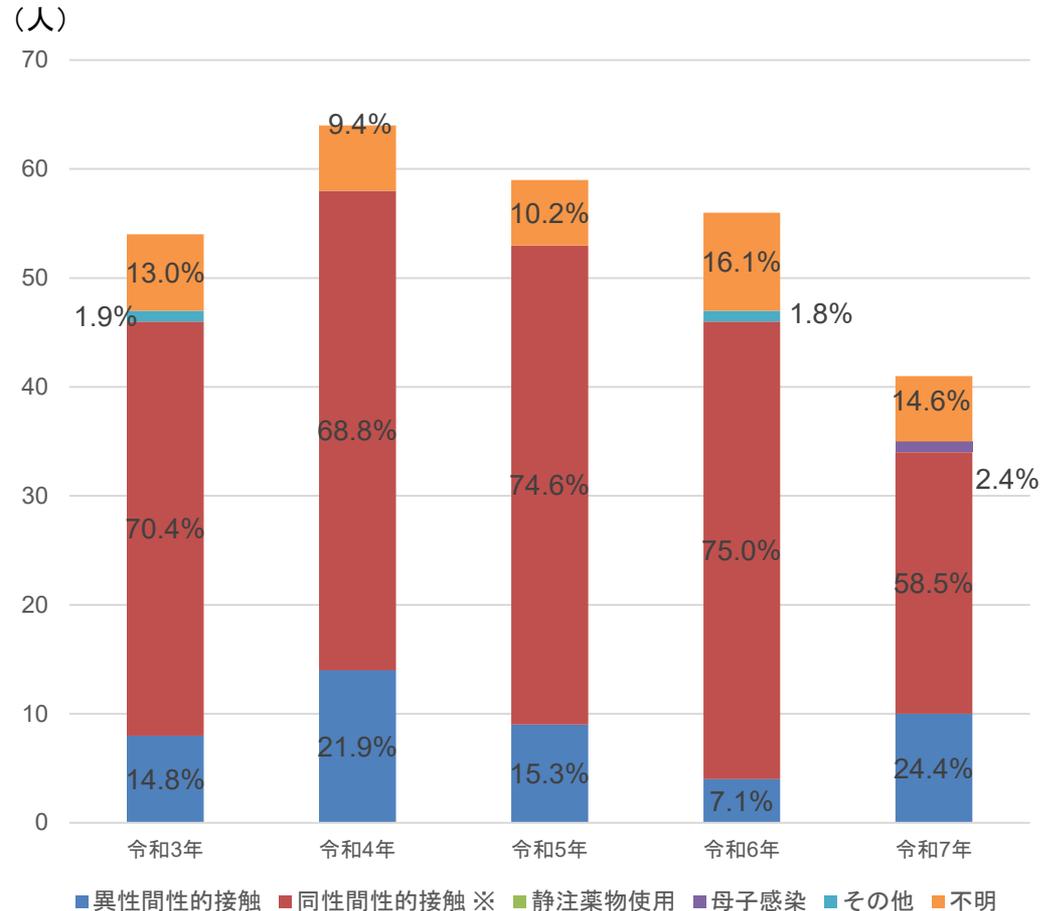


(4)新規HIV感染者・エイズ患者の感染経路(推定)別年次推移

区分	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
異性間性的接触	8	14	9	4	10
同性間性的接触 ※	38	44	44	42	24
静注薬物使用	0	0	0	0	0
母子感染	0	0	0	0	1
その他	1	0	0	1	0
不明	7	6	6	9	6
総数	54	64	59	56	41

※ 両性間の性的接触を含む

最新年は速報値



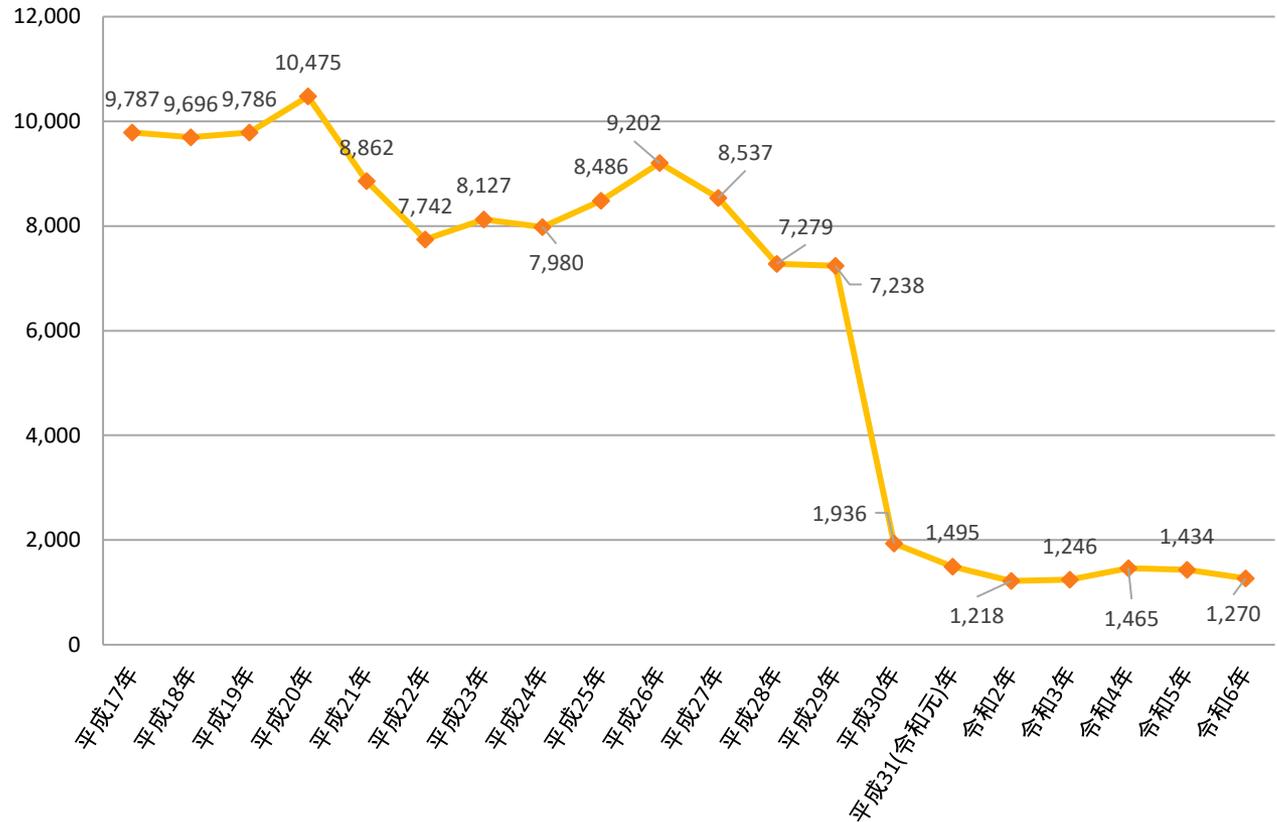
【引用データ】福岡県感染症発生動向調査
※受理日で集計



保健所におけるエイズ相談件数の年次推移

年	相談件数
平成17年	9,787
平成18年	9,696
平成19年	9,786
平成20年	10,475
平成21年	8,862
平成22年	7,742
平成23年	8,127
平成24年	7,980
平成25年	8,486
平成26年	9,202
平成27年	8,537
平成28年	7,279
平成29年	7,238
平成30年	1,936
平成31 (令和元)年	1,495
令和2年	1,218
令和3年	1,246
令和4年	1,465
令和5年	1,434
令和6年	1,270

(件)



【引用データ】

厚生労働省宛四半期報告当課集計

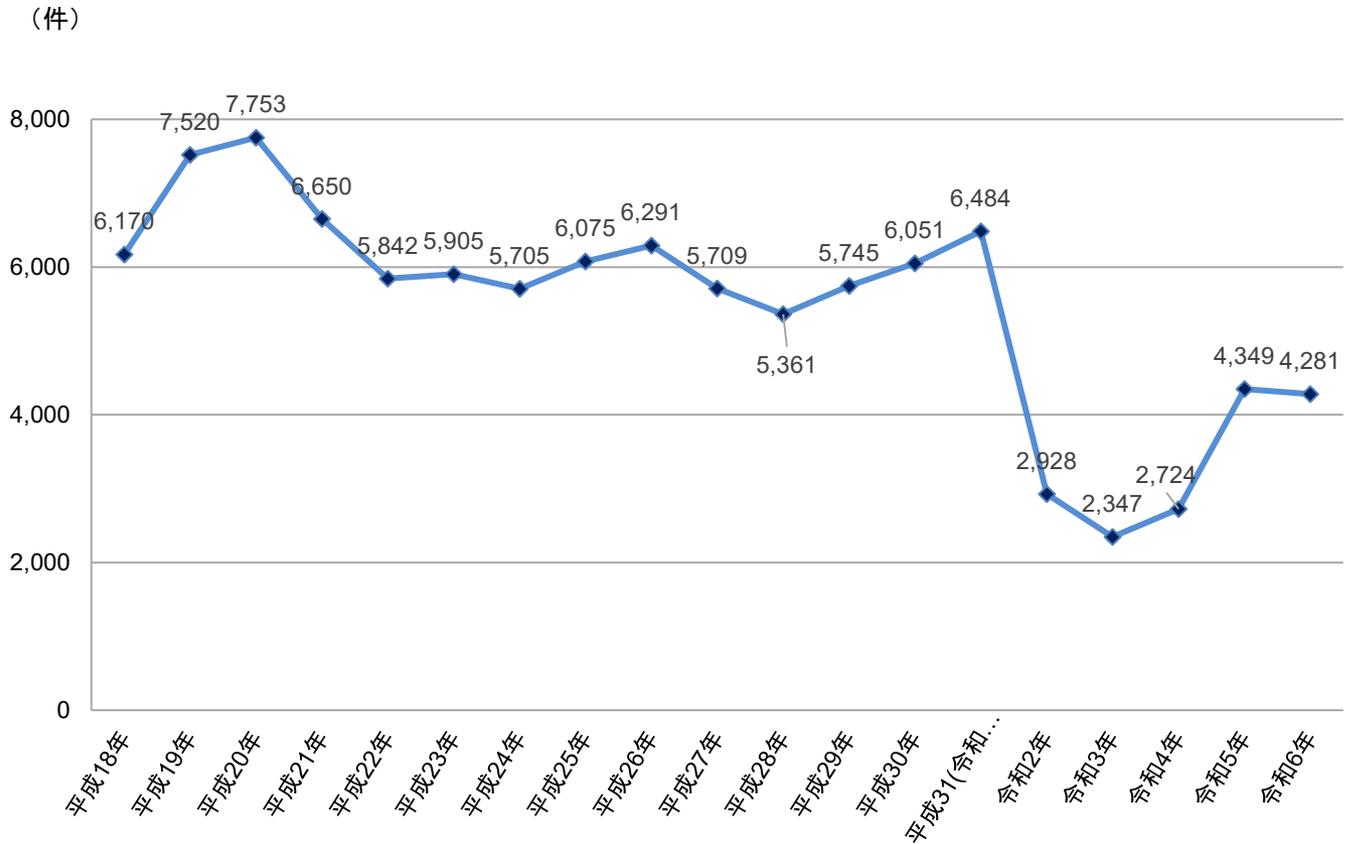
令和6(2024)年エイズ発生動向年報(1月1日~12月31日)

※相談件数は、かねてより国から、検査時の事前問診における相談を含まない数で報告するよう求められており、平成29~30年度にかけて、福岡県の報告内容を是正した。平成28年以前は検査時の事前問診における相談を含んだ件数となっている。



保健所におけるHIV抗体検査件数の年次推移

年	HIV抗体検査件数
平成17年	5,146
平成18年	6,170
平成19年	7,520
平成20年	7,753
平成21年	6,650
平成22年	5,842
平成23年	5,905
平成24年	5,705
平成25年	6,075
平成26年	6,291
平成27年	5,709
平成28年	5,361
平成29年	5,745
平成30年	6,051
平成31(令和元)年	6,484
令和2年	2,928
令和3年	2,347
令和4年	2,724
令和5年	4,349
令和6年	4,281



【引用データ】
 厚生労働省宛四半期報告当課集計
 令和6(2024)年エイズ発生動向年報(1月1日～12月31日)



データから見る福岡県のHIV感染症・エイズ患者の状況と課題

○ 新規HIV感染者数・エイズ患者報告数、いきなりエイズ率

- ・前年と比べ、感染者数・患者数ともに減っているが、いきなりエイズ率は高くなっている。

○ 年代別、国籍別、性別、感染経路(推定)別報告件数の年次推移

- ・新規HIV感染者は30歳代の報告数が最も多いが、年代間の差は減っている。エイズ患者は50歳代以上が最も多かった。
- ・新規HIV感染者・エイズ患者は男性が9割以上を占めており、推定感染経路は同性間の性的接触が5割以上を占めている。
- ・外国人の割合は4.9%と、過去5年の中で二番目に低い。

○ 保健所における相談件数、検査件数

- ・相談件数・検査件数ともに前年と比べ減少した。
- ・検査件数は令和4年以降回復傾向にあるが新型コロナウイルス感染症出現前までの件数には至っていない。

1 早期発見のための検査機会の拡充

2 対象を絞った対策

3 感染予防のための幅広い年代を対象とした普及啓発

課題に対する福岡県の取り組み

1 検査機会の拡充

新型コロナウイルス感染症発生時と比較し検査件数は回復しているが、いきなりエイズ率が減少してはいないこと、無料・匿名で性感染症の検査を受検できるのは保健所のみであることなどを踏まえ、幅広い年代や外国籍の住民が受検できるよう、検査機会の拡充が必要である。

○現在の取り組み

- ・県内23か所で検査を実施
(うち9か所で即日検査を実施)
- ・HIV検査普及週間や世界エイズデーには
夜間・休日検査を実施

○今後の検討事項

- ・保健所で行う夜間・休日の定例的な検査
- ・郵送検査
- ・医療機関委託

福岡県内のエイズ(HIV)・性感染症検査
実施保健所一覧
(エイズ/HIV対策の情報ページ)
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/hiv-2025.html>



課題に対する福岡県の取り組み

2-1 対象を絞った対策

男性とセックスする男性(MSM)へのアプローチ

新規HIV感染者、エイズ患者の5割以上が同性間性的接触であることから、当事者団体等と協力しながらMSMへのアプローチを継続していく。

○現在の取り組み

- ・当事者団体と協力し、「九州レインボープライド2025」会場にブース出展し、HIVの予防啓発を実施（福岡市と協働）
- ・当事者団体と協力し、保健所で実施している検査等に関する啓発資材やコンドームを作成、ゲイバーやイベント等で配布（福岡市と協働）



九州レインボープライド2025



2-2 対象を絞った対策

感染者・患者が安心して暮らせる地域の整備

エイズ治療の飛躍的な進歩により、HIV感染者・エイズ患者が高齢化していくなかで、地域の医療機関・介護施設等での受け入れが非常に重要である。

地域の医療機関・介護施設等関係機関の従事者が、エイズに関する知識をアップデートしていくとともに、安心してHIV感染者やエイズ患者に関われる環境整備を継続していく。

○令和7年度の取組み

- ① 介護施設等従事者に向けたHIV・エイズ基礎研修会を実施
- ② 抗HIV薬整備事業を継続して実施

課題に対する福岡県の取り組み

① HIV・エイズ基礎研修会

研修日：令和8年1月13日（火）

対象：介護施設等従事者、保健所職員等

研修形式：Web開催（オンデマンド配信あり）

申込件数：124件

研修内容：

- ① HIV・AIDSの基礎知識
- ② 福岡県内のHIV感染者・エイズ患者報告数等の情報について
- ③ 地域包括ケアシステムにおけるHIV陽性者の療養支援について

課題に対する福岡県の取り組み

② 抗HIV薬整備事業について

平成11年8月30日付厚生省保健医療局エイズ疾病対策課長及び医薬安全局安全対策課長通知に基づき、針刺し事故等が起こった際に、被曝露者が2時間以内に予防内服を行うことができるよう、令和4年度から抗HIV薬整備事業の検討を開始した。九州医療センターをはじめとした各エイズ治療拠点病院の協力を得て、令和5年度に予防内服マニュアルを作成し、小波瀬病院に抗HIV薬を配備、令和6年度に朝倉医師会病院に抗HIV薬を配備した。今後も、抗HIV薬配備の推進及び予防内服マニュアルの見直しを予定。



● : エイズ拠点病院、● : 抗HIV薬整備医療機関

1	九州医療センター	6	久留米大学病院
2	産業医科大学病院	7	聖マリア病院
3	九州大学病院	8	小波瀬病院
4	福岡大学病院	9	朝倉医師会病院
5	飯塚病院		

3 幅広い年代を対象とした普及啓発

課題1、2を推進していくためにも、HIVやエイズに関する正しい知識や受検情報を県民へ普及・啓発するポピュレーションアプローチが引き続き重要となる。

○現在の取り組み

- ・検査普及週間及び世界エイズデーにおける普及啓発
県庁ロビーや県内各保健所で予防啓発ポスター展示やパンフレット、コンドームを配布。
また、旧福岡県公会堂貴賓館をレッドリボンカラーにライトアップ。
- ・年2回の県内HIV感染者・エイズ患者報告数等の情報公開

○今後の検討事項

- ・デジタルサイネージの活用等、多くの県民が情報に触れられるような普及・啓発方法の工夫



歯科診療ネットワークについて

- ・九州医療センター及び福岡県歯科医師会において、HIV感染者の療養上の生活の質の向上を図るため、同感染者に対する歯科診療の連携について合意書を取り交わした(平成31年4月1日)。
- ・令和5年度に産業医科大学病院と県歯科医師会において取り決めを行った。
- ・県内の約150の歯科医療機関がネットワークに参加。
- ・県歯科医師会と取り決めを行ったエイズ治療拠点病院の患者を対象に県歯科医師会がマッチング。
- ・今後、更なる参加医療機関の拡充に向けた取組みが必要。

